

こもれび(せせらぎ)地域連携推進会議議事録

日付: 2026-02-27 10:00~12:00

場所: こもれびリビング せせらぎ
見学

参加者: 地域住民2名・GH 関係者
3名・利用者1名

1) グループホームの運営状況と課題

- 利用者構成と支援の必要性

- こもれび:

- 利用者は本体 5 名、サテライト 1 名の合計 6 名。
- 障害支援区分は、区分 3 が 1 名、区分 4 が 2 名(サテライト含む)、区分 5 が 1 名、区分 6 が 2 名。
- 区分 3 の利用者も含め、全員が多くの支援を必要としている。
- 入所施設からの地域移行者が 1 名いる。

- せせらぎ:

- 利用者は 5 名。うち 1 名(K さん)は腰椎骨折のため入院中。
- 支援区分は 4 が 1 名、5 が 3 名、6 が 1 名であり、手厚い支援が必要。
- 利用者の高齢化も進んでおり、職員の増員が必要な時間帯がある。

2) 経営状況と職員体制

- 運営は国の給付で賄われているが、職員の確保が困難。最低賃金に処遇改善加算を加えても、時給が高い他の職種に人材が流れている。赤字ではないが、厳しい経営状況が続く。

- 「こもれび」「せせらぎ」ともに常勤職員は 1 名。夕食支援担当が「こもれび」に 3 名、「せせらぎ」に 2 名。

- 3 月から長時間支援可能なパート職員が入職予定だが、現状は既存職員が超過勤務で支援している。

- 他施設との比較

- 横須賀市内には 100 か所以上のグループホームがあるが、多くは株式会社等が運営する軽度利用者向けの施設で、職員配置が少ない傾向にある。

- 「こもれび」や「せせらぎ」のように重度利用者を支援する施設は運営が厳しい。

入院中の入居者(K さん)の復帰に関する課題

- 受け入れの困難性:

- 本人は「せせらぎ」への復帰を希望しているが、グループホーム職員は介護の専門家ではなく、おむつ交換や体重の重い利用者の移乗介助は困難。

- K さんは腰を骨折しており、体を起こすことや長時間座ることが難しく、常に特定の姿勢を保つ必要がある。

- 過去に車椅子利用者(Mさん)の介助でさえ困難だったことから、それ以上に体重のあるKさんの介助は、職員の身体的負担や転倒リスクから非常に難しい。特に夜間や日中の職員一人体制では対応不可能。

- 今後の対応方針と連携:

- まず病院側とケース会議を開き、医師の見解を含めた現状を正確に把握する。
- 受け入れが難しい場合、いわきにいる兄弟にも事情を説明する。
- 保佐人がついていますが、入院後の状況を把握しておらず連携が取れていない。

- 他の施設への移転の可能性:

- 横須賀の身体障害者を対応しているグループホーム「ローズハウス」も満床で入居は困難。
- 病院側は、本人の強い意志がなければリハビリ専門病院に移っても改善は期待できないとの見解。

- 本人は他の選択肢を知らないため「せせらぎに帰る」としか言えない可能性があり、複数の施設を見学する必要がある。しかし、車椅子での移動自体が非常に困難で、見学の実施にも課題がある。

障害福祉サービスと介護保険制度について

- 制度の違い:

- 介護保険のグループホームは入居料が高額(10数万~20万円近く)なのに対し、障害福祉サービスは障害年金の範囲内(居住費等約6万4000円)で設定されている。

- 自己負担は、介護保険が原則1割負担、障害福祉サービスは応能負担のためほぼゼロ。

- 報酬改定と介護保険との併用:

- 前回の報酬改定で区分3利用者の夜勤体制加算単価が引き下げられ、運営に影響が出ている。

- 65歳以降は介護保険サービスが優先されるが、外出支援等は障害福祉サービスで継続利用可能。横須賀市では本人の希望があればグループホームを継続利用できるが、市町村によっては完全移行を求められる場合もある。

3) 災害対策と地域連携及び意見交換

- BCPと備蓄:

- 「こもれび」「せせらぎ」はハザードマップで1メートルの浸水地域。家屋倒壊がなければホームに留まる方針。

- 食材、水、簡易トイレ、ポータブル電源などの備蓄品は整備済み。横須賀市の指示に従いBCPを策定しているが、その実効性には疑問も残る。

- 避難場所:

- 佐原地区では大矢部小学校で避難所運営訓練を実施。

- 舟倉地域は明浜小学校が避難場所だが、津波の際に海に向かう経路に懸念がある。代替避難場所として舟倉は大塚台・佐原は常勝寺が指定されている。

- 要援護者名簿と地域連携の課題:

- 利用者の「要援護者名簿」への登録情報が古く、現状を反映していない可能性がある。
- 地域のボランティアチームが年 3 回確認作業を行っているが、チーム自体が高齢化と人員減少の問題を抱えている。
- 町内会や民生委員、消防団も高齢化しており、災害時に実質的な支援が期待できるか不透明。
- 住民票と情報共有の問題:
 - 多くの入居者の住民票が実家に残っており、市からの重要書類が本人に直接届かない問題が発生している。
 - 家族が高齢化・遠方にいる場合、書類の受け渡しが困難なため、委任状を使って施設側で住所変更手続きを進めたケースもある。

利用者家族の状況

- 利用者の親も高齢化しており、免許返納などで送迎が難しくなっている。
- 家族は施設入居の必要性を理解しつつも、子どもに自宅に帰ってきてほしいという思いを抱えているケースも見られる。

4) 今後の予定・取り決め

作成した議事録を確認後、ホームページにアップロードする。

この後 せせらぎの見学を行う。

「せせらぎ」地区の民生委員に要援護者名簿の状況を確認する。(狩野さん)

グループホーム利用者の要援護者名簿への登録・更新方法について市に確認する。(海原)

(K さんに関して) 病院とケース会議を開き、現状を確認する。

(K さんに関して) 受け入れが難しい場合、兄弟に事情を説明する。

(K さんに関して) 他の施設の選択肢を検討し、見学の方法を模索する。

それらの状況を踏まえて次回の会議で進捗状況を報告する。

* 来年度以降も 1 年に一度このような地域連携推進会議を開催し常時情報共有を実施していきます。今回日程が先に決定していたため地域の福祉に明るい相談室あすなろの方の参加が、会議と重なり出席出来なかったこと、家族の代表としてお願いしていた方も通院と重なってしまったので出席できなかったため、次回は皆様のご都合を併せて開催をしていきたい旨のご了解をいただく。せせらぎを見学し、12 時で終了した。